平成２５年度　杉並区立杉森中学校　学校評価報告書（ 最終版 ）

校　長　　大 橋　亮　介

評価→Ａ：十分に達成されている　Ｂ：概ね達成されている　Ｃ：達成がやや不十分である　Ｄ：達成が不十分である

項目	重点目標	取組状況・成果・課題	評価	改善策・対応策	学校関係者評価における意見
特色ある教育活動	・ＥＳＳの実施	・秋川荘の使用ができなくなったことに伴い、八王子セミナーハウスでの初めての実施となったが、昨年度からの引き継ぎが円滑になされ、滞りなく実施できた。参加生徒の英語レベルが例年より低く、外国人講師の選定が希望通りに行かなかったにも関わらず、参加者が英語学芸発表会にボランティアとして参加するなど、意欲喚起を含めて充実した内容であった。		・企画運営に関するノウハウの蓄積が十分に行われているので、次年度以降も継続実施していく。特色ある教育活動として予算要望を行う。	・ESSは本校の特色ある教育活動として、毎年開催され成果をあげてきた。今後は、その成果と経験を生かしながら、全校生徒にも体験できるような内容を工夫して行けると良い。
	・言語活動の充実	・「言葉の教育」として、国語科を中心に全校体制で朝の読書時間に週１回「本の紹介」を行い、表現力の向上に努めた。また、学校支援本部の協力の下、朝の読み聞かせを実施した。 全教科において、言語活動を充実させていかなければならない。	Ｂ	・書評に関しては、今年度の検証を踏まえ、学校全体での取り組みとしての位置づけを明確にしていく。 　読み聞かせに関しては、各学年・学級でのローテーションをうまく組み、実施内容に偏りがないよう工夫していく。	・言語活動の充実を目指すためには、様々なコミュニケーション教育についての成果に学びながら、文字言語と音声言語の活用など、バランスのとれた指導方針を研究しさらにその充実を目指したい。 ・学級から学年発表等、生徒の活躍できる場面を作ることがやる気を起こさせる。
	・食育の推進	・外部講師による講演や、食育担当・栄養士を中心とした給食への関わり、生徒自身が健康・食について考える機会を多く持つことができた。 　学習成果を給食メニューに反映した。		・計画的な実施が確立し、各担当が機能しているので、さらに体力向上へとつなげていく。	・食育の推進については、知育・徳育・体育の基礎でもあり、専門家との連携を深めながら、その計画的な充実を目指したい。更にその成果については、保護者へも情報提供につとめ、家庭における食育について考えていくきっかけとしたい。

《学校関係者評価を受けての学校の改善方策》
・ＥＳＳと土曜授業の英語活動をリンクさせ、ＥＳＳでの学習成果が全校生徒に波及するよう英語指導の内容を工夫・改善する。
・各教科における言語活動の実践と成果及び課題を集約し、教科の枠を超えた指導法の確立を図る。
・食育指導の情報を家庭にきめ細かく伝え、学校と保護者が同一の方向性を持って生徒の体力とともに健全育成に当たる。

項目	重点目標	取組状況・成果・課題	評価	改善策・対応策	学校関係者評価における意見
学習指導	・基礎・基本の定着	・学校評価アンケートの結果、基礎・基本の定着に関しては、生徒の肯定率が８４．９％に対し、保護者が５９．５％と差異がみられる。 下位層の生徒の学力向上が不十分である。	B	・数・理・英の３教科で少人数指導を実施しているが、個に応じた授業展開の推進をさらに工夫・改善する必要がある。また、全教科において毎時間復習・確認の時間を設定する。	・授業が一斉指導中心で、一人一人の生徒への目のかけ方が弱い可能性がある。 ・少人数授業の中で、個に応じた指導を進めながら、一定の成果を挙げている。保護者にも指導者が工夫している点や、その成果について、具体的に理解してもらうことが必要である。 ・数値の差異は、保護者の関心度と情報量に問題があるかもしれない。平均に達していないと定着していないと判断するのではないか。調査結果など丁寧に説明する必要がある。
	・個に応じた学力の伸長	・教育調査において、個に応じた指導に対する肯定率が、生徒34．２％、保護者３８％と低い数値となっている。		・研究課題である学びあいと個の指導について、授業内容、指導方法の検証及び具体的な改善策が必要である。	・指導法をテーマとした授業研究など公開し、計画的に実施できるとよい。 ・授業中に個別指導の時間が少ないという結果が表れたのではないか。
	・課題解決できる能力の向上	・都の学力向上を図るための調査調果では、国語・数学が若干上回る程度であるのに対し、社会が4.4ポポイント、英語が3.1ポイント、理科が7.8ポイント高い。少人数指導の成果が、特に理科で顕著に表れている。		・課題解決能力の向上のために、さらに研究を推進するとともに指導体制を固めていく。	・少人数指導の成果を具体的に検証しながら、課題解決能力の向上につなげられるとよい。
	・授業規律の徹底	・生活指導部を中心として、全校共通理解の下、授業規律の徹底が図られた。		・授業規律の徹底を維持するために、全教員による共通理解・共通実践を続けていく。	・生徒自身が、自覚と意欲をもって授業に参加できるよう、生徒の実態を踏まえ、授業への動機付けを丁寧にしてほしい。
	・補充学習教室の実施	・補充学習教室の運営が軌道に乗り、2.3年の下位層が区平均よりやや上昇した。授業理解の意図を明確にし、教員と外部指導員との共通認識をさらに深めていく必要がある。		・教員と外部指導員との打ち合わせを綿密に行い、共通理解の下、実施していく。また、教材を購入し、計画的に実施する。	・学力不足の生徒への対応を公立学校として具体的に行っている。Ｄ層の生徒を伸ばすことは大切。補充学習教室への具体的な支援など、今後とも力を入れるべき。
	《学校関係者評価を受けての学校の改善方策》 ・学びあいを核として生徒が主体的に課題解決に取り組み、少人数指導との関連を図りながら基礎・基本を確実に定着させる。 ・補充学習教室の教材選定及び外部講師との連携をさらに深め、指導内容を充実させる。				

項目	重点目標	取組状況・成果・課題	評価	改善策・対応策	学校関係者評価における意見
生活指導・進路指導	・互いに尊重し合う態度の育成	・行事（体育祭・合唱コンクール）及び部活動への取り組みを通して、人間関係の構築に成果が見られる。 いじめ調査だけでなく、日常から全教員が他学年の生徒まで含めて細かく目配りをし、いじめ等の早期発見と的確な対応をした。	B	・行事に関する指導体制は、組織的な対応ができているので、継続していく。 生活指導に関しては、学年を中心とするが、学校全体での情報共有と指導方針の確認と徹底を図り、学校全体でいじめ問題に対する取り組みをさらに深めていく。	・互いに尊重し合う態度の育成について、学校行事の充実や学年での具体的な取り組みのなかでよく努力している。学校内での情報の共有化と指導方針の徹底を今後とも大切にしていきたい。
	・個別指導・支援体制の充実	・教育相談委員会を中心として、教員とＳＣの連携による個別指導・支援体制の充実を図った。また、職員会議・職員朝会等で学年間の情報伝達を密に行い、指導・支援体制の充実を図れた。ただし、学校評価アンケートでは、個別支援が必要な生徒への配慮に対する保護者の肯定率が４５．９％と低い。		・個別指導・相談体制は、特別支援教育コーディネーターを中心として、養護教諭・教員・ＳＣの連携が密に図られ、成果を挙げている。 個人情報に関わる内容から、取り組みの周知には制約があり、保護者の理解を得るだけの情報公開は不可能であるが、今後も一層充実させる。	・教職員の専門的な力量を生かしながら課題を抱える生徒への対応をきめ細かく行っている。関係の保護者への対応も、丁寧に行い、その悩みによく応えている。このことは今後とも継続していきたい。
	・防災・安全教育の推進	・避難訓練への取り組みに緊張感が欠けた時があった。 ３月に実施予定の自転車安全教室や防災講演会などを契機に、改めて防災・安全に対する意識を高める。		・地域との連携を強化し、生徒レスキュー隊の活用も含め、計画的に継続していく。	・危機管理に関わる区の専門家とも連携し、地域の実態を踏まえた、防災・安全教育の推進を目指したい。
	・体験的な学習を重視したキャリア教育の推進	・第２学年では、地域の事業所の全面的な協力の下、職場体験活動を実施できた。学校評価アンケートでは保護者の肯定率が８３．９％に対して、生徒が７４．８％と、若干低い数値となっている。		・職場体験の実施方法を、学年毎ではなく学校としての体系を明確にしていく必要がある。	・地域の事業所の全面的な協力の下、職場体験活動が実施できたことは評価できる。区の動向に合わせながら、生徒にとって意味のあるキャリア教育の推進を目指したい。 ・保護者や地域の人々も招いて職場体験活動報告会を実施するなど、生徒のプレゼンテーション能力を高める取組を実施して欲しい。生徒の発表を周りの大人が高く評価する機会を増やせば、学校評価（生徒）の肯定率も高まると考えられる。

《学校関係者評価を受けての学校の改善方策》　（フォントの違いを訂正しました）

・互いを思いやる気持ちを重視した特別活動・部活動など、計画的な取り組みをさらに推進する。
・特別支援教育相談委員会の活動をさらに拡充させ、教職員へのアドバイス等積極的に関われる組織づくりを行い、特別支援教育をより推進する。
・地域町会との連携による防災訓練・避難訓練等を設定し、学校と地域の相互協力による防災体制を整える。

項目	重点目標	取組状況・成果・課題	評価	改善策・対応策	学校関係者評価における意見
道徳・総合的な学習の時間・特別活動	・体験活動を通した道徳性の涵養 ・自他の生命を大切にする実践的態度の育成	・第１学年のフレンドシップスクールは、実施時期が９月から５月に変更になったものの、実施目的の検討を十分に行わなかったため、ねらいの達成が十分に果たされなかった。 ・学校の全ての教育活動を自分自身のこと、他人や社会のとの関わりについて取り組んだ。その結果、判断力、思考力が高まり、自分がすべき行動ができるようになってきた。 ・「いのちの教育月間」における外部講師の話を真剣に受け取り、自他の生命について深く考えられた。 保護者は、学校評価アンケートで５９％教育調査では５６％と同程度の肯定率であるが、生徒は、前者が７６％、後者が42.7％と差異が見られる。	B	・第１学年のフレンドシップスクールに関しては、その実施時期と関連させた「互いを知る」という目的達成の指導を検討し、実践する。 ・道徳の教材として、環境・福祉など様々な分野について活用する。 ・人権教育の計画的な推進を図り、教科指導・生活指導において自他の生命を大切にすることの指導を徹底して行う。	・フレンドシップスクールの目的が「中学校進学に伴う生活環境や交友関係の変化に対応できる力を育てる」ことにあるのであれば、9月に実施していた時に見られたような集団行動は見られなかったとしても、ある程度、ねらいは達成できたのではないかと考えられる。 ・道徳教育の推進にあたっては、専門家より最新の情報など紹介して頂き、学校として、今後も創意工夫して行く必要がある。フレンドシップスクールの実施については、実態に応じて改善していく。 ・自他の生命を大切にする実践的態度の育成は学校の教育活動全体を通じてなされるべきものであり、人権教育全体計画などをもとに評価するのが適当であろう。評価が「いのちの教育月間」における外部講師の話だけになってしまっているように思われる。「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めること」が日常の教育活動でどの程度実現されているかなどが評価されてしかるべきではないか。 ・人権教育推進の計画立案について、専門家や保護者とも相談しながら、具体的に進めていくと良い。映画・演劇鑑賞・関係者の講演など工夫し、自他の生命を大切にする実践的な態度を育てたい。
	・生徒会活動におけるボランティア活動の充実	・地域行事へのボランティア活動において、参加人数のみならず、活動内容において顕著な取り組み姿勢の改善が見られた。「高円寺ウルトララリー」及び「ふれあい運動会」の活動に対して、青少年表彰の推薦をいただいた。	A	・自治力の充実をさらにめざしていく。 ・ボランティア活動への主体的な参加や、節度ある日常的な生活態度から、生徒の道徳性がよく見てとれる。	・地域の活性化のために努力している方々ともよく相談しながら、地域のイベントへの本校生徒の参加を、今後とも積極的に進めてほしい。

《学校関係者評価を受けての学校の改善方策》
・今年度のフレンドシップスクールの検証を元に、互いを知り集団生活の規律を高めることをねらいとし実践する。
・生徒自身が自らの道徳性を肯定的にとらえられるよう、朝礼・学活・各種たより等で折に触れてフィードバックし、自己肯定感を高めていく。
・人権教育は、すべての教育活動の中で行われるものであり、具体的な計画を立てるとともに、教職員の人権意識をより一層高める。

項目	重点目標	取組状況・成果・課題	評価	改善策・対応策	学校関係者評価における意見
学校運営	・学校運営協議会、学校支援本部、ＰＴＡとの連携を密にし、地域運営学校としての学校運営を推進	・学校評価アンケートの結果、地域運営学校としての保護者肯定率は６４．３%、学校支援本部との連携に関しては７６．４%と、概ね肯定的な評価である。 　新入生保護者説明会やＰＴＡ運営委員会において、学校運営協議会長の話の場を設定していることも、学校との連携を周知するよい効果を挙げていると考えられる。	B	・学校運営協議会、学校支援本部、ＰＴＡとの連携を密にしていく。 ・学校支援本部とは、補充教室、土曜授業等でさらに協力していただく。	・新入生保護者説明会やＰＴＡ運営委員会において、学校運営協議会長の話の場を設定していることだけでなく、さらに周知・協力できる方法を考える必要がある。 ・学校運営協議会において学校支援本部の活動報告がなされると連携がより円滑になったと思われる。 ・環境美化などにも協力してもらうことも考えられる。
	・学校を地域に広く公開し、情報発信の充実	・学校評価アンケートにおいて、学校の情報提供に対する肯定率は８５．７%と高い数値である。 　ただし、教育方針や教育の重点を分か りやすく伝えているかという項目では、６９．３%と、若干低い数値となっている。	A	・学校ＨＰの内容充実および更新回数の増加により、学校評価アンケートで高い肯定率を得られたので、今後もより分かりやすい内容と回数の拡充を図っていく。	・学校ＨＰの内容充実や学校便りなど、よく工夫されており、学校を地域に開く努力には期待しているが、保護者や地域住民のニーズに応じた情報発信をさらに分かりやすく工夫していけるとよい。
	・小中一貫教育の推進	・昨年度に引き続き、年間３回の小中合同研修会を行い、各校の実態把握と小中の教育カリキュラムの一貫化を図った。 　今年度は、体育祭での小学生参加綱引きに加え、小学生の部活動体験を実施した。 　学校評価アンケートでは、保護者肯定率が６２．４%と、ある程度の評価を得られた。	B	・教員同士の、情報交換が積極的に実施できるようにコーディネーターを中心に推進する。 ・小学生が中学校で体験する機会をさらに設定する。また、中学生が小学校での行事などにボランティアとして参加する機会を増やす。	・小学校の外国語活動と中学校の英語との連携・協力などができるとよい。 ・それぞれ、小中の多くの連携行事の中で杉森祭や部活動への参加など、よく工夫し小中一貫教育の推進について具体的に努力している。今後、学力問題への対応など、小中の教育カリキュラムの系統性についても、工夫していこうとしている。
	《学校関係者評価を受けての学校の改善方策》 ・学校支援本部、PTAとの連携をより推進するために、連絡会を設定する。 ・ＨＰや学校便り等の工夫・改善をおこない、より広く学校を知ってもらうとともに、ＣＳの活動をより広く紹介していく。 ・小中合同研修会をより充実させ、研究発表を一つの機会ととらえ学区小学校２校との連携をより深めていく。				